



公民館図書室 今月のおすすめ



スパイスカレー新手法
水野 仁輔 / 著
パイインターナショナル



165回
直木賞

テスカトリポカ
佐藤 究 / 著
KADOKAWA



彼岸花が咲く島
李 琴峰 / 著
文藝春秋



やってみよう!
車中泊
大橋 保之 / 著
中央公論新社



室町は今日も
ハードボイルド
清水 克行 / 著
新潮社



種から種へ命つながる
お野菜の一生
鈴木 純 / 著
雷鳥社



方向音痴って、
なおるんですか?
吉玉 サキ / 著
交通新聞社



子どもたちが
つくる町
村上 靖彦 / 著
世界思想社



からあげビーチ
キーロバ・ナージャ / 作
文響社

大桑村公民館図書室 (村民体育館 横)

開室時間 平日 9時～17時/18時～20時 休日 9時～17時

※ 18時以降に図書室を利用される場合、体育館窓口へお申し出ください。



生涯学習情報「まなびましよう」は大桑村のホームページにカラーで掲載しています。
掲載内容に関するお問合せは 大桑村教育委員会生涯学習係 0264-55-1020



お知らせ

村内公共施設の臨時休館について

長野県は9月3日から12日までを「命と暮らしを救う集中対策期間」として、新型コロナウイルス感染症対策を強化しています。

これに伴い、村内公共施設は下記の通り臨時休館となります。また、今後の感染拡大状況により対応を変更する場合があります。ご理解ご協力をお願いします。

期 間 9月3日（金）～12日（日）

休館施設 村民体育館、多目的運動広場、公民館図書室、歴史民俗資料館

利用自粛施設 中央公民館、野尻・須原地区館、各分館

新たな出会いの広場：新図書館

大桑村新図書館の開館まで、約1年となりました。現在、公民館図書室入口には、「新図書館コーナー」として、新図書館に関する情報を案内しています。

また、このコーナーでは、「図書館でこんなことできたらいいな」という、みなさんのメッセージ・質問等も募集しています。

最近はこんなメッセージをお寄せいただきました。ありがとうございます！

大人も子供ものんびりできる。

子供を連れて行っても
気をつかわずに一緒に
本が読めるといいな。

夜にも利用できると
うれしい。

大きなソファで
本が読めたり
すると良い。

みなさんの「学び・交流・発信」を支援する図書館を目指して鋭意準備中です。

図書館準備室便り



図書館長 平中和司

以前いた職場の話。出張に行く新人君に上司が声をかけました。「道順わかる？」 帰ってきた言葉は「大丈夫っす。」

この新人、大いにひんしゅくをかってしまったのですが、「～っす。」という言葉遣いは、若者の間にしっかり定着しているようです。



中村 桃子 著
白澤社

図書室に新しく入った、『新敬語「マジヤバイっす」』は、そんな「～っす」という言葉遣いを考察した本。「新敬語」という命名が面白く、「マジヤバイっす」というタイトルも斬新。

早速手に取ってみました。ところがこの本、タイトルの軽妙さからは想像できないほど真面目な本。専門用語も出

てくる言語学の本でした。サブタイトルに『社会言語学の視点から』とあるのをすっかり見落としていたのです。

そういえば、その前に読んだ『最後の秘境東京藝大・天才たちのカオスな日常』にも騙されました。どんなトンデモ人間が登場するのかなと思ったら、真摯に芸術に打ち込む学生さんたちの姿が描かれていたのです。



二宮 敦人 著
新潮社

それぞれの本、興味深くかつ楽しく読ませては頂いたのですが、内容以上にタイトルが面白すぎないか、と思ったのも事実。

それで思い出したのが、ビリー・ワイルダー監督の映画『七年目の浮気』。マリリン・モンローのスカート一で有名な映画です。主人公は空想力…というより妄想力たくましい編集者。精神科医から預かった原稿を読みながら出版タイトルを考えます。原稿のタイトルは『人間と無意識』。もっと刺激的にしなければ売れないと『セックスと暴力』と改題し、表紙も内容とは正反対の扇情的なものに改編。

もしかしたら『新敬語「マジヤバイっす」』も、編集者が大いに腕を振るったタイトルだったのかもしれません。

そんなことを考えながら本の背表紙を眺めていると、著者のみならず編集者の苦労も感じられて、また違った楽しみが出てくるのでした。